

令和6年度

学校関係者評価書

東洋理容美容専門学校
学校関係者評価委員会

(全体評価)

「衛生を重視する職業人としての自覚と認識を深めさせ、理容師・美容師として健全な社会生活を営むために必要な態度と能力を育成する」という教育理念に基づいて、理容美容業界を担う職業人としての在り方や社会人としての教養や礼儀・マナーを身につけさせることに主眼をおき、教員と外部講師による適切な指導の積み重ねにより、学校全体として一定の成果が定着している。

令和5年に創立70周年を迎え、創立者の建学の精神をしっかりと引き継いだ歴史の蓄積とともに、時代の変化を捉え進化し続ける学校であり続けるためにも、真の職業教育のあり方を追求し、常に検証と改善を望むところである。また今日養成施設のあり方として問われている即戦力人材の養成についての課題もクリアして、業界の展望をしっかりと捉え最新の設備を十分活かし、さらに一層徹底したキャリア教育とカリキュラムの充実を期待している。

定員確保について、美容科は県内最多学生数ではあるが定員には達していない。しかし前年度に比べ微増である。理容科については、例年募集が厳しい現状であったが、来年度入学者については好調で定員を充足するに至っている。全国的に(特に地方は)理容師志望の学生の増加はなかなか見込めないなか、お洒落な海外BARBERや都内のお洒落な理容室が、美容室が提案するメンズヘアスタイルとはまた異なったより男性的なスタイルの提案をして新たなヘア文化を生み出し、またSNS等で理容の魅力を発信し、理容師に対する理解が得られつつあり、さらに理容師に憧れる若者が少しずつであるが増えていることも要因ではないかと思われる。しかし、一過性のものにならないように若者にとってより魅力的な理容業界への発展を願うところである。

学校としても千葉県内唯一三年間で理容と美容の両方の資格を取得できる併設校であること、ロンドンササースクールシップ校として、また今年度から始まる韓国の教育機関との提携により、海外の技術、最先端の技術を学び、国際感覚を養う幅広い技術と教養を身に付けることが出来ること、美容修得者理容科・理容修得者美容科設置により、理容師美容師ダブルライセンスが取得出来ることなどを、理容科、美容科の衛生専門課程、通信課程、修得者課程の全課程を活かしたハイブリッドな学習内容・カリキュラムをしっかりと伝え、「選ばれる学校」としてその価値を認められ、さらに多くの学生が入学することを期待している。

令和6年4月よりスタートしたプロフェッショナルコースは、ダブルライセンス取得とともに、国際ライセンス(City&Guilds)取得、経営マネジメント学習など就職前に身に付けておくべきことを充実させる学習内容は、より幅広いフィールドで活躍したいと考えているものにとって大変魅力的である。既存の短期マスター、放課後セミナーなど現場の技術・意見を積極的に取り入れ、即戦力につなげるカリキュラムとともに、多様性、ジェンダーレス、国際化、少子高齢化などの社会構造の中で、より質の高い技術やサービスを提供できる人材育成は今後の大きな課題であり、その為にも一人一人の教職員の資質・指導力の向上、研鑽と、教育システムの確立、情報共有、連携などが求められる。

学生、教員ともに絶えず進化、成長できる学習環境、職場環境の整備に邁進することをさらに一層期待している。

(項目別評価)

(1) 教育理念、教育目標

「衛生を重視する職業人としての自覚と認識を深めさせ、理容師・美容師として、健全な社会生活を営むために必要な、態度と能力を育成する」という教育理念、教育目標が明文化され整備されている。ホームページでの情報公開と共に学校案内パンフレットにも記載されている。職業実践専門課程における教育編成委員会の設置により、今後もより実践的で且つ時代の変化に即したカリキュラム編成で、質の高い人材育成を求める。

また、人格を陶冶するという教育理念のもと、週休3日制を導入し、幅広い活動やプライベートの充実など、社会に貢献できる人材としての心の豊かさを育む学習環境として今後の取り組みにも期待する。

(2) 学校運営

概ね良好である。教育体制の連携強化のために定期的な会議、打合せを実施し、問題点、改善点があれば常に協議し、様々な情報を伝達、共有している。継続して連携を図り良好な学校運営をすることを望む。

学生情報管理システムの導入により業務の効率化が図れている。今後も個人情報などの保護に努めつつ、学生募集管理から学籍管理、履修管理、成績評価、卒業認定、就職先までの一連の情報集約、活用を期待する。さらに今後のDX化についての推進を期待する。

(3) 教育活動

教育全体の学習効果を高め、カリキュラムの統制や一貫性のあるものにするため授業計画(シラバス)を明確にする必要があり、現在ホームページに公開している。職業実践訓練課程として、よりキャリア教育・実践的な職業教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法の工夫のためにも、外部講師からの評価もしっかり取り入れてもらいたい。また改善方策にある「実務に関する知識・技術・技能を修得・向上するための研修」、「授業及び学生に対する指導力等を修得・向上するための研修」について、教員は学生指導と共に効率よく時間を作り実施してもらいたい。また教員の資質向上、指導力向上のためにも組織的なシステムの確立、企業との連携をさらに推進することを求める。また今後も大きな課題となるのが、企業からも求められる即戦力人材の育成であるが、アシスタント期間の短縮を目指し、離職率の高さについても改善をしていかなければならない。

(4) 学修成果

例年通り就職率は安定している。就職担当を中心に教員と学生の個別面談やアドバイス等の支援の流れが明確で、実績につながっている。またガイダンスの実施や、企業による面接指導などにも力を入れている。国家試験合格率については昨年、筆記試験合格率の結果が思わしくなかったが、繰り返し課題に取り組ませるなど苦手教科を克服する為の工夫により、やや改善が見られたようだ。退学率については昨年より減少したが、今後も担任ローテーション制により教員一丸となって学生の技術指導、生活指導、就職指導など広くサポート体制を強化し、より一層の退学率の低下に努めることを求める。

各認定資格の取得状況もよい。卒業後のキャリア形成の効果については、同窓会やSNS、各サロンや専門誌と連携を図り情報交換し、より一層学校の教育活動に反映出来るとよい。

(5) 学生支援

例年同様「特待生制度」、「奨学金制度」が実施されたことを評価する。また高等教育の修学支援制度の対象校として入学金・授業料の減免を受けることが出来、学校独自の奨学金制度、日本学生支援機構奨学金と合わせて学生の授業料等の不安についても今後サポート・ケアしてもらいたい。

その他就職や資格取得の支援、コンテストに挑戦する学生や、遠方からの入学生に対する支援等充実している。第16回全国学生技術大会関東地区大会において入賞者し、全国大会に出場できた学生がいたことは喜ばしい

が、もっと入賞者を増やせるような指導と学生、教員のモチベーションがもっと上がるよう期待する。今年も「魅髪祭」で技術の成果を発揮する場が持てたことは晴らしかった。ササーンカットコンテスト全国大会には校内予選を勝ち抜いた25名が出演し、6位に入賞できた学生がいたことは素晴らしい。さらに今後も学生のモチベーションをあげて、より意欲的に学習できるようなサポートを期待する。

(6)教育環境

本館の完成と、1号館耐震補強工事校舎リニューアル、令和3年の2号館校舎リニューアルにより教育環境が格段に良くなっている。今後災害等時などに備え通信環境の強化をはかってもらいたい。また年2回の避難訓練、消防訓練を望むが、災害時に食料と水を備蓄してあるのは、地域に貢献する意味も含めて評価できる。課題である防災防犯マニュアルについてはしっかりと整備し、今後さらに安全な学校生活を確保するため、想定される危険や災害とその対処要領を明確にして不測の事態にも対応できるよう取り組んでもらいたい。

(7)学生の受入れ募集

進学相談会や高校ガイダンスへの参加、高校訪問を積極的に行っている。学校案内やパンフレット、ホームページなどで学校の特色等をわかりやすく伝えている。特に近年スマートフォンを活用し、専門学校の情報を収集する高校生が多いという調査のもと、スマートフォンで見やすいホームページに変更、合わせて最新のパンフレットのイメージも刷新された。またオープンキャンパスも数多く実施し内容も充実させている。他にも遠方進学希望者の交通費サポートなど工夫を凝らし、高校生の参加人数や、来校機会が増えているように思われる。理容科は定員確保ができたので、今後も競合校の動向、少子化や大学全入学、経済状況の悪化、業界の縮小等の問題を見据えつつ、継続して定員確保に努力してほしい。特にダブルライセンスの魅力をより伝えてほしい。また今年から学生による広報チーム「T-LABO」を結成し、より高校生目線でオープンキャンパスの内容を企画したり、参加者との交流をより深めることが出来き、結果的にも入学者増につながっている。学校の特色が明確化され、またそれをいかに魅力あるものとして伝えていくか、今後の募集活動に期待する。

(8)財務

財務は良好であり、情報公開もされている。経営を更に安定させるためにもさらに学生募集・広報活動に力を入れて欲しい。

(9)法令等の遵守

関係法令を遵守し、適正な学校運営を行っている。セキュリティの強化や個人情報の管理は徹底事項であるので、その啓発と認識が重要である。またSNSにおけるトラブルなどにも注視し学生にも教育する必要があるが、実際に SNS 等に関する授業を実施しているようである。今後社会人としての良識を育てるためにも継続して取り組んでほしい。自己評価については適正に行われており、ホームページにも公開されている。学校運営の改善にも反映されている。

(10)社会貢献・地域貢献

定期的な募金活動、美容ボランティア、大学や地域イベントなどのヘアメイクボランティアなどを今後も継続することを期待したい。赤い羽根共同募金、エコキャップの提供、校舎周辺清掃、その他聾学校との交流、地域中学校の職場体験等も実施し、社会と地域への貢献につながっている。

(11)国際交流

イギリスのササーンスクールと英国シェフィールドカレッジ、スペインのカズカーラメイクスクールと提携し、教育プログラム実施と海外研修の実施を行っており、国際感覚を養う上で、学生にとっても貴重な経験だと思われる。令和3年度、令和4年度はコロナ禍により中止となったが、令和5年度には再開し、イギリスロンドンへの海外研修が行われたことは喜ばしいことである。また令和6年度から韓国の群浦eビジネス高等学校、京畿商業高等学校と教育提携を結び、最新の流行の韓国ヘア、韓国メイクに関心を持つ学生にとっても、また将来的にもお客様のニーズに応えられる理美容師になるためにも貴重な機会を提供している。